



おにぎり通信

2020年8月8日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷、銀座、日比谷、秋葉原、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

7月は、平年と比べて、雨の量が倍、晴れた時間が半分と、極端な天気でした。8月から10月の長期予報では、雨の量は平年並み、気温は少し高めとなっています。7月は雨ばかりでしたが、8月は晴れた日が続く予報ですので、熱中症には気をつけたいといけません。

福祉行動は、しばらくお休みします。

お困りの方は、おにぎりを配る時に、お声がけください。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当面の間、毎週月曜日の福祉行動は、原則として、お休みいたします。

ただし、病院や生活相談等で、福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しに伺った際に、お声がけください。毎週土曜日の訪問活動の時に声がけ頂いた場合のみ、次の月曜日に、福祉事務所まで同行いたします。

最寄の福祉事務所

中央区福祉事務所・中央区築地1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階

<新型コロナウイルスに関する電話相談窓口>

厚生労働省 0120-565653 (フリーダイヤル) 9時~21時

東京都 0570-550571 9時~22時

<特別定額給付金コールセンター>

総務省 0120-260020 (フリーダイヤル) 9時~20時

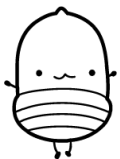
やなぎだくにお
【柳田国男】

日本人はどのように生きてきたのか、日本人とは何か。この問題に、日本各地に伝わる風俗や民話をたどって迫ったのが、「遠野物語」などが有名で、日本の民俗学のはじまりとされる柳田国男です。

日本人を特徴づけるものとして、柳田国男は、古来より日本全国にあり、その土地の人々と生活を守りはぐくむ「氏神への信仰」に注目し、それを土台に日本人の文化や生活のあり方が成り立ってきたと考えました。氏神は、代々の祖先の霊が合わさったものであり、人は誰でも死んだら何十年かの後に氏神になってゆくとされていました。

日本人は、自分の内面、例えば信念や信仰などではなく、外面、つまり他人にどう思われるかに重きを置いて、物事を判断すると言われます。これに対して、柳田国男は、日本人の内面性が比較的弱いことは認めつつも、どのように生きて行くかを考える時には、やはり内面的なものが基礎となっており、その中でも氏神信仰、例えば「ご先祖さまに申し訳ない」といった想いが、善悪や是非を決める重要な要素になっていると捉えました。

一方で、柳田国男は、氏神信仰がずっと続くものとは考えていませんでした。1962年8月8日に88歳で亡くなってから50年余りが経ちますが、彼が想像した通りに、日本人の生活の中で氏神信仰の占める度合いは薄くなってきています。だから昔の日本人は良かった、現代の日本人は駄目になった、といった話にすぐつながる訳ではありませんが、良くも悪くも日本人を律してきたものがひとつ無くなってきているということを知っておくのは、意味があるように思います。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せず、ゴミ箱に入れるなど、片付けにご協力をお願いいたします。おにぎりは必ずその日のうちにお召し上り下さい。また、お1人1個でお願いします。

四ツ谷おにぎり仲間 千代田区麴町6-5-1 聖イグナチオ教会
連絡先 080-7967-8672 (連絡可能時間 毎週土曜日午後3時~6時)